



# シートベルト着用に関する人身事故分析結果

※過去5年（R元年～R5年）の宮城県内の人身事故データをもとに分析

四輪車乗用中人身交通事故当事者のシートベルト（チャイルドシートを含む）着用率等について、様々な視点から分析をしました。

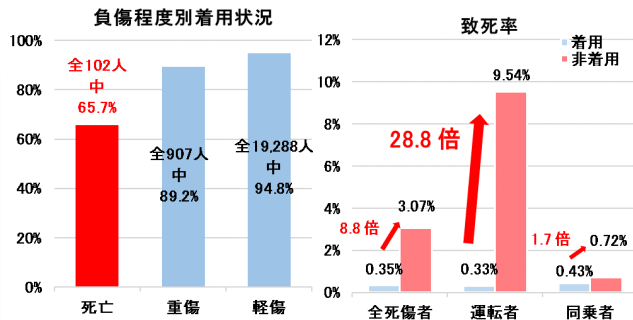
過去5年間の四輪乗用中に死傷した当事者は20,297人で、そのうち**1,141人（5.6%）がシートベルト非着用**でした。



## 死者は着用率が低い

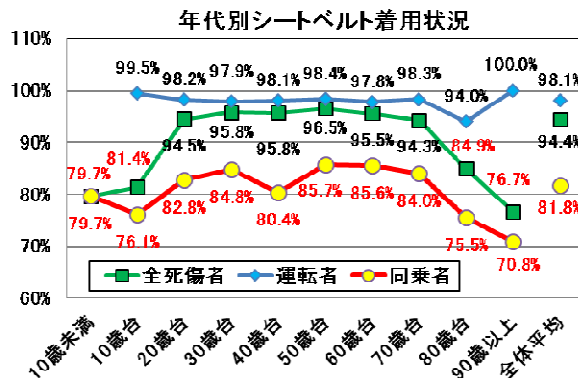
負傷程度別では**死者の着用率が65.7%**（102人中67人）と低くなりました。

致死率（死傷者数に対する死者数の割合）は、**非着用の運転者は9.45%**（304人中29人）で、着用の運転者（0.33%、15,339人中51人）と比べ**28.8倍高**くなりました。

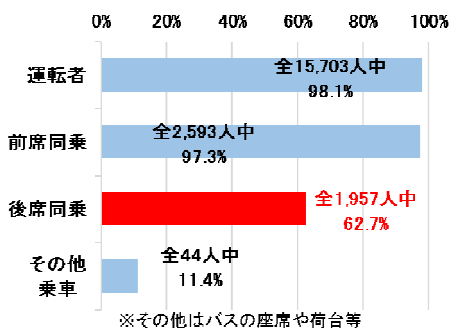


## 後部同乗者、20歳未満、80歳以上の着用率が低い

乗車位置別では**後部同乗者の着用率が62.7%**（1,957人中1,228人）と低く、年代別では**20歳未満と80歳以上の同乗者の着用率が、他の年代より低**くなりました。

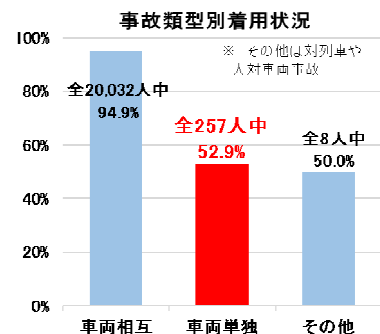


乗車位置別着用状況

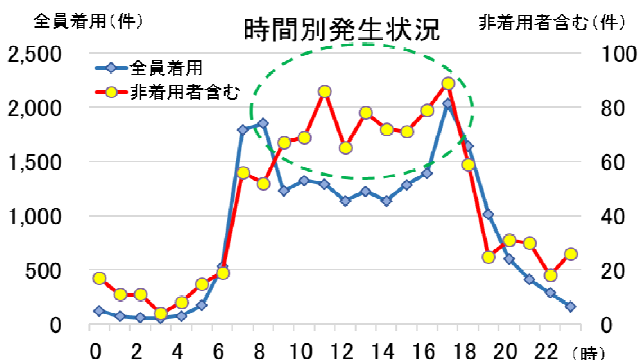


## 車両単独事故で着用率が低い

事故類型別では**車両単独の着用率が52.9%**（257人中136人）と低くなりました。



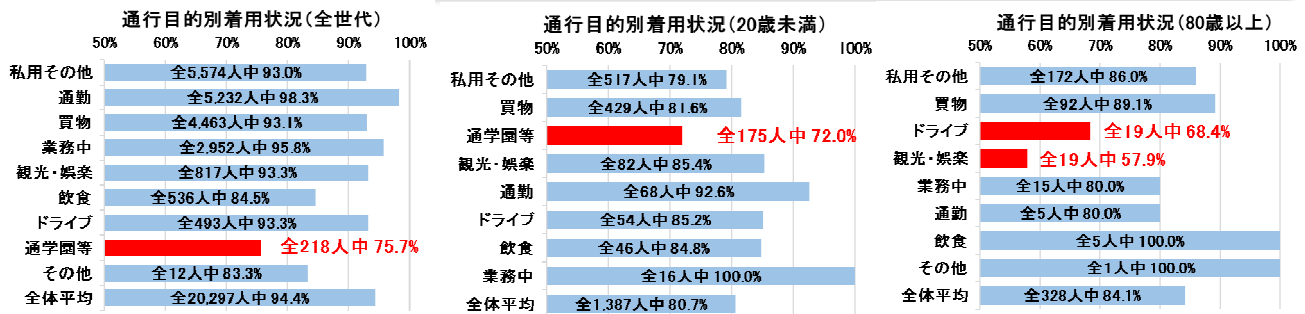
## 日中の発生が多い



非着用者（負傷の有無を問わず）が関係した四輪車事故の発生時間を見ると、全員着用の事故は朝と夕方にピークがあるのに比べ、**非着用者を含む事故は日中帯の9時から17時台にピークがある**ほか、夜間帯の20時から2時台の発生割合も多くなりました。

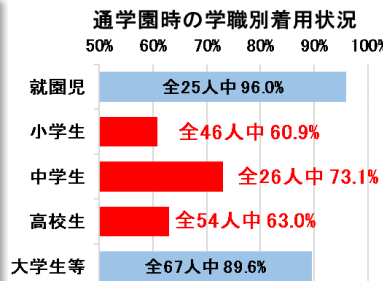
## 全世代と20歳未満は通学園時、80歳以上はドライブや観光・娯楽時の着用率が低い

通行目的別では、**全世代は通学園等が75.7%**（218人中165人）、**20歳未満も通学園等が72.0%**（175人中126人）と着用率が低く、**80歳以上はドライブが68.4%**（19人中13人）、**観光・娯楽が57.9%**（19人中11人）と着用率が低くなりました。



## 通学中の小中高校生の着用率が低い

通学中の**小中高校生**の着用率は**6～7割**と低く、特に**高校3年生は38.1%**（21人中8人）と、着用者が4割以下でした。

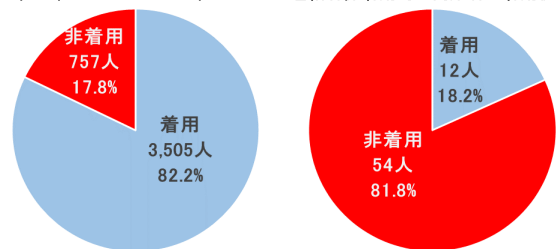


## 運転者が着用しないと同乗者もしない

運転者がベルト着用の場合、同乗者の着用率は82.2%ですが、**運転者が非着用の場合は18.2%**と大幅に低くなりました。

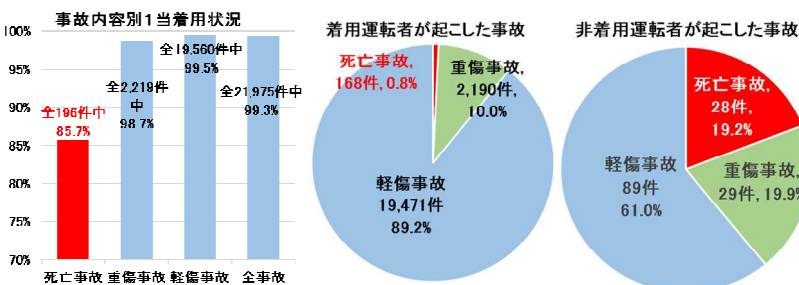
※ 第1、2当事者の同乗者のみ対象

運転者着用時の同乗者の着用状況 運転者非着用時の同乗者の着用状況



(参考) 道路交通法第71条の3第2項  
自動車の運転者は、座席ベルトを装着しない者を～(略)～乗車させて自動車を運転してはならない。

## 非着用者が事故を起こすと死亡事故になりやすい



四輪車による死亡事故の第1当事者（原因者）の着用率は85.7%（196件中168件）と低く、**ベルト非着用者が起こした事故のうち、死亡事故は19.2%**（146件中28件）を占め、ベルト着用者による死亡事故率0.77%（21,289件中168件）の**24.9倍高**なっています。

※ 死亡事故28件中第1当事者の死者は26人

## まずは運転者が着用、後部同乗者には発進前に着用の声かけを！

シートベルトをしないドライバーが事故を起こすと**死亡事故になる割合が非常に高くなる**ので、まずは自ら着用し、交通ルールを守りましょう。その上で、発進前は必ず**後部座席の同乗者、特に通学・通園の際の20歳未満の同乗者やドライブ・観光の際の80歳以上の同乗者には、忘れずにベルト着用の声掛け**をして下さい。

また、**通学中の小中高校生の着用率が特に低い**ので、送迎をする保護者の責任で、必ずシートベルトをさせましょう。

